

女同士は、いやらしい

---

---

女同士は、いやらしい

「レズビアン」

---

---

[提供：NAN-NET](#)

女同士は、いやらしい

女同士は、いやらしい

女  
同  
士  
は  
、  
い  
や  
ら  
し  
い

1週間前に幸子との初めてのセックスを投稿した者です。

正直申しまして、私達は、性欲がたまつた者同士の、肉欲のぶつけ合いが始まりでした。

初めて幸子と関係をもつてからは、ほとんど毎日、昼間は幸子の家に入り浸りとなり、真つ昼間から、飢えたお互いの体を貪り合っていました。

ただ、何回も体を貪り合ううちに、いつからか、お互いにいとおしく、愛情がこみ上げてくるのを感じるようになりました。

ある日、幸子の家の居間で、前日に久しぶりに夫とセックスしたことを話すると、幸子は急に不機嫌になり、

「あんた、ウチとのスケベじゃ物足りんか？、ちよつと、立ちい。」

と言うなり、立ち上がり、私の腕を引っ張って立たせ、居間の壁に押し付け、私の両手を貼り付けのように、手で押さえつけてきました。

そして、身動きができなくなった私に、いきなり口づけをしてきたのです。

すぐに幸子の舌が、私の口をこじ開けるように入ってきて、激しく動き回ります。

そして、

「ウン、ウン、ウン」

と唸りながら、自分の舌を私の口に差し込んだまま、ピストン運動のように激しく顔を前後に振るのでした。

激しいキスに私の全身の力が抜けてきた頃です。今度は、立つたままの体勢で私のスカートは捲り上げられ、パンストごとパンティを一気に下まで下ろされてしまいました。

幸子は自分もスカートとパンティをぬぎ取り、下半身だけ裸になった状態で、自分のアソコを私のアソコに正面からグイグイと押し付けてきました。

最初は、ゆっくりとしたリズムで一呼吸おきながら、

「ウンッ、ウンッ、ウンッ」

と言いながら、男が女を犯すような腰使いでアソコを力強く打ちつけてたり、円を描くように擦り合わせてきたのです。

幸子はハー、ハー言いながら、

「なあ聞こえるやる？あんたのおケケとウチのおケケがジャリジャリいっているのが。スケベな音出しているのが。」

その卑猥な言葉に私のアソコがジンジン感じてしまい、透明な愛液が、太ももを垂れていくのがわかります。

「タベ、あなたのダンナを啜え込んだスケベまんこからスケベ汁がいつぱい出てきたよ。ウチのまんこでもっと、べっちよりぐちよぐちよにさせてやるから。」

最後は、私を横に寝かせ、両足を持ち上げ、自分の両肩にかけ、アソコとアソコをピツタリと合わせ、今までにない位、激しく腰を振ってきました。

絶頂を迎える頃になると、二人とも、ご近所に聞こえてしまうのでは？という位の大きな声を出してしまいました。

その日の幸子とのセックスは、嫉妬心からか、それは激しいものでした。淫らな言葉もいっぱいあびせてきました。

ただ、幸子とセックスは、夫とのよりもずっと、感じてしまいます。

最近はずっとそばに居たいと思うようになってきました。

彼女のやらしさの虜になっていく自分が怖くなってきます。

女同士は、いやらしい

---

## 女同士は、いやらしい

二〇〇八年三月三十一日 投稿

掲載元 官能小説セレクション

(URL: <http://www.kannou.cc/>)

提供 NAN・NET

(URL: <http://www.nantv.com/index1.htm>)

---

投稿された文章の著作権は、全てMANITOに帰属します。当サイト内の文章、音声等の情報の無断転載、無断引用は禁止です。情報の転載、引用、掲載、取材等をご希望の場合は、必ずご一報ください。上記の要望に対し当社が問題が無いと判断した場合、他メディアにおいて、投稿された情報が掲載等される場合があります。

---

女同士は、いやらしい